



□口繪原色寫眞版三宅氏の「カイロ」は昨年歐洲旅行中の作品にして埃及ナイル河口の寫生、紙は粗面のワットマン、石川氏の『台灣の町』はワットマン九ツ切大、大下氏の『早春』は四ツ切大越後妙高山附近の寫生なり、藤田氏の『松江大橋』は四ツ切大の繪にて昨夏松江講習會に於て寫生せられしもの。

□本號の表紙は相田寅彦氏の圖案なり。

□次號の記事として石川寅治氏の靜物畫の話しを載する筈なれども一月は旅行に差支へ多ければ三月號より連載を乞へし眞野氏の透視畫法續、服部嘉香氏のナイト氏の繪畫概論矢代氏の偉大なる繪とは何、石川欽一郎氏の水彩繪具の談、スツデヲ紹介、大下氏の日記抄に替へるに畫樂苦多日記を以てし、遺稿としては飯坂と鹽原等を掲載すべし。

□次號の挿繪には大下氏、赤城氏、眞野氏、の三枚と今一枚未定のものと都合四枚の原色寫眞版及び其他の寫眞版を掲ぐ

□日本水彩畫會々友規定を廢して春鳥會々員規定を制定任り爾後は之れにより會務を處理すべきにつき此段御承認相成度候

□爾後は從來の春鳥會會友を特別會員に日本水彩畫會々友は正會員に、直接讀者て會友と改稱任り候、其他は總て從前の規定と異なること無之候

□改正の本會々員規定は本誌廣告の中に納め有之候故御一覽の上不可解の點は御照會相成度候

□大下家より例年の通り諸氏よりの年賀狀に對し御答禮申上可き筈に候へ共喪中につき缺禮仕可候由此段御承知被下度候

□日本水彩畫會の新年會は一月二十八日の月次會當日を以て催さる由

□誌代其他の御送金は爾後振替口座東京六九六三番春鳥會大下春子に宛て拂込相成度御注意申上候

□卷尾添付の會員名簿は數月間誌代拂込なき方を退會と見做し調製任り候へ共此際再び引續き御愛讀被下候は會員の資格に復し申可候

賀

正

明治四十五年元旦

(イロハ順)
磯部 忠一
石川 欽一郎
大橋 正堯
岡 精一
河合 新藏
永地 秀太
鶉澤 四丁
丸山 晚霞
眞野 紀太郎
小島 烏水